

子育て委員会の取組

(1) 活動計画

①研究テーマ

ア 全道統一スローガン

「今 こころ輝いて 親として 人として」

イ 今年度の研究テーマ

「豊かな心をもった子どもを育てる親の在り方」

②研究の視点

今日、少子高齢化や情報技術の著しい発達など、社会が急激に変化している。都市化や核家族化がさらに進行し、価値観や倫理観、規範意識、家庭教育に関する考え方の多様化など、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化している。また新型コロナウイルス感染症の発症により、感染症対策を講じての生活様式の変化や経済への影響など、世界情勢の見通しが難しい現状である。

子どもたちに「豊かな心」を持たせ「生きる力」を身につけさせるには、親の生き方が大切である。「親は人生最初の教師であり、教育の原点は家庭にあり」と言われるように、親は子どもにとって一番身近で深く関わる存在であり、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、思いやりの心、善悪の判断など、「生きる力」の基礎的な資質や能力は家庭教育の中で培われる。親は子どもの行動や意識の形成に最も大きな影響力を及ぼすものであり、その責任は大きく、人生の先輩として重要な役割を担っている。

予測不能な難しい時代をたくましく、そして健やかに生き抜く力を子どもたちに身につけさせるために、親が家庭内での協力関係を築くとともに、家庭・地域・学校が三位一体となって連携し、新しい時代の子育てに努めることが重要である。

そのため、本委員会は「PTAとして」「人生の先輩である大人として」子どもたちを取り巻く環境を丁寧に見取り、課題を把握し、解決に向けた取組を推進する。

また、子育てに関する情報の収集や発信、積極的

な交流を図るために、今年度も道P連のHPを活用し、地区並びに単位PTAへ情報を継続的に発信・提供する発信源として活動の充実に努める。HP上にブロック各地での活動の様子等を調査しタイムリーに掲載し、情報の共有化や話題を広げる活動実践等の交流の場とする。地区P連事務局と連携を密にし、活動が見える、わかる、参加したいという実践を目指し、より主体的に子育てに関わることができるような活動を推進していく。



[第2回子育て委員会の様子]

(2) 研究の内容

①子育て委員会の活性化と組織の充実の在り方

ア 各地区子育て委員会を組織化し、活性化させるための地区子育て研修会はどうあればよいか。

イ 指導力を高め、行動する子育て委員会の日常的な活動はどうあればよいか。

ウ 自ら学び、行動する親としての研修はどうあればよいか。

エ 行動する親を支える子育て支援の活動はどうあればよいか。

オ それぞれの実態に応じたスムーズな引き継ぎの在り方はどうあればよいか。

カ 子育て支援のため、自治体、教育委員会等関係機関や、学校、地域との連携はどうあればよいか。(福祉 教育支援センター 子ども食堂 学童 等)

②「生きる力」を育てる家庭教育の在り方

ア 家庭の教育力を高めるためにはどうあればよいか。

イ 家庭における食生活や食の安全はどうあればよいか。

ウ 家庭と学校、家庭と地域社会の連携はどうあればよいか。

エ 家庭において、情報メディアやネットから子どもの安全を確保するにはどうあればよいか。

③子育て委員会の話題提供源としての広報活動

～「生きる力」を子どもたちへ伝えるための連携・発信をめざして～

ア 道P連のHPを活用した継続的な情報発信の推進

イ ブロック・各地区・単位PTAの活動状況内容の収集と話題提供

ウ 情報の共有化及び参考資料の整備

エ 道P連のHPを活用した継続的な情報発信の推進

④令和7年度提言に向けた取組の準備

(3) 今年度の取組

①各地区における活動及び研究の推進

②道P連子育て・広報委員会の活動

ア 本年度の方向性の確認

イ 地区子育て委員会の具体的な活動・実践状況についての情報交流

ウ 各地区における引継方法等についての情報交流

エ 道P連ホームページへの投稿体験

オ 地区子育て委員会報告書の集約・研究内容の交流

カ 今年度のまとめと次年度の方向性についての話し合い

(4) 成果と課題

①子育て委員会の活性化と組織の充実の在り方

《成果》

ア 昨年同様、新型コロナ感染対策を講じながらの実施となったが、昨年の経験を生かして研修会を実施することができた。

- ・広い会場を確保すること
- ・来場者の人数制限を設定したこと

・学校ごとの人数制限にしなかったこと

・検温、消毒、座席指定 など

イ 集合しての講演会、時短、参加者限定、複数会場でのZOOMによる講演会実施、単Pごとに会場を設置してオンラインによる講演会と分科会実施、オンデマンド動画配信や再視聴できる対応など、地域性に合わせて工夫して実施ができた。

ウ オンラインによる講演会にはむずかしさもあるものの、ブレイクアウトルームなどの機能を使い、聞きっぱなしではなく、対話の形も実現することができた。

《課題》

ア オンライン開催の準備、運営の技術や機材の費用等、誰にでもできる形ではない。

イ オンライン視聴側の環境整備が必要である。

ウ 新型コロナの状況に応じながらも、より参加者を増やすため、実技・体験など研修会内容の工夫が必要である。また、参加者募集の方法についても工夫が必要である。

エ 対面する機会が少ないため、組織体制存続や引継ぎ業務に支障が出ている。

オ 地区の事務局の任期が短く、引継ぎがスムーズにできない状況がある。改善策が必要である。

カ 座席くじ引き、名札作りなど感染対策の徹底に難しさがあった。

②「生きる力」を育てる家庭教育の在り方

《成果》

ア 家庭教育の在り方、親子のかかわり方を見つめ直す機会になった。

イ ICT 機器の使い方や家庭でのルール作り、SNS との接し方など、子どもたちが上手にメディアと付き合っていく方法を模索する機会となった。性についての話題も関心が高かった。

ウ 家庭と学校の連携が必要であることも確認できた。

エ 今後も参加者のニーズに応える分科会・講

習会を実施していく。気軽に参加できるように工夫していく。

《課題》

- ア ポストコロナにおける家庭教育の在り方について、経験を生かした実践が必要である。
- イ 「GIGAスクール」等、ネットに関わる家庭教育の重要性へのさらなる理解が必要である。

③子育て委員会の話題提供源としての広報活動

《成果》

- ア 道PのHP投稿について体験研修を行い各地区との交流への足掛かりとした。
- イ 昨年度より多くの投稿があり、各地区での実践や道Pの取組を発信することができた。
- ウ 今後も、全道各地区の特徴的な取組を、HPや会報誌、各ブロック研など様々な場を使って随時発信していく。

《課題》

- ア HPへの投稿の仕方について、会員が活用できるよう取組・改善を推進する。
- イ 広報紙（紙による発信）のよさを見直す機会である。
- ウ ペーパーレスや活字離れへの工夫・改善とネットとの共存を模索する。

④令和7年度提言に向けた取組の準備

《成果》

- ア 子育て委員会場でテーマの候補例を話し合った。
(例) ネットワーク、情報・メディア、外部との連携、食（給食）について

《課題》

- ア 担当地区の決定、提言に向けた役員の任期継続等、見通しと早目の準備が必要である。
- イ 事務局と連携し、スムーズな計画と準備が理想的である。

(5) 次年度の方向性

①子育て委員会の活性化と組織の充実の在り方

- ア 「活動を止めないPTA」を目指し、活動

の目的・趣旨等の共通理解に努める。

- イ 会議について、集合型・WEB型等、実態に合わせて開催する。

②「生きる力」を育てる家庭教育の在り方

- ア 子育ての悩みを共有する場を設定し、意見交流や地域関係機関と連携できるよう情報発信を推進する。
- イ 関心の高いテーマをもとに家庭教育の在り方を研修し、取組の交流をする。

③子育て委員会の話題提供源としての広報活動

- ア ホームページによる継続的な情報発信を推進する。
- イ ホームページについて周知し、投稿・閲覧を呼びかけ、会員による活用の促進を図る。
- ウ 各地区の取組の情報共有化と参考資料の整備をする。
- エ 広報紙コンクール参加への呼びかけを推進する。

④令和7年度提言に向けた取組の準備

- ア テーマの絞り込みや、担当地区を想定する。
- イ 提言までの取組や計画の大枠（予定）を決める。



[第3回子育て委員会の様子]